



一 特色と等質 一

9月から11月まで学校行事が目白押し。ゆえに地域や保護者の方に、案内をいくつもつくってお届けする必要があります。それも管理職(特に教頭)の大事な仕事のうちですが。



この前、ある方に案内をお渡ししたときの話。

「学校によっていろいろちがいますね…」とのお言葉をいただきました。それは、教職員の仕事ぶりや学校の雰囲気であったり、地域や保護者の方への対応であったり、いろんな意味で『学校によってちがう』と、わたくしはそう理解しましたが…。

和歌山県内はもちろん、紀ノ川筋、いえいえ和歌山市内でも学校によって微妙にちがうことが多々あり、さらに教職員が異動でかわるたび学校の雰囲気も変化していきます。自身も紀の川市・岩出市ですっと勤務してきて、和歌山市に来たときはずいぶんとまどったものでした。おなじ小学校で

もこんなに仕組みや仕事の内容がちがうのかと。だから今のこの四箇郷を、小学校のスタンダード(標準・基準)では決してないことを自覚しなければならないでしょう。でない、今まではこうだったからこれからもこれでOKと、大きな間違いするかもしれません。

学校は、マ●ド●ル●やユ●ク●の店のよう、全国どこでも同じ商品を提供するところではなく、地域や保護者の状況や子どもの実態に応じた特色ある教育を行わなければならない。しかし、それとともに義務教育の場である以上、他の都道府県と等質の教育が行われなければならないという責務もあります。和歌山県の小中学生の学力について何かと話題になっていますが、理由のひとつにそれがあのです。特色ある教育とともに等質の教育を求められているからです。

本校児童の学力に関することは、近いうちにお知らせします。現在、全教員でもって全国学力・学習状況調査の結果の分析・考察中であります。

